



校章の由来

県立三中を意味した三つの剣を組み合わせ、初代大屋校長の考で剛健・真剣・勤儉の三けん、更に智・仁・勇の三徳を兼ねた象徴として用いられて来た

厚高同窓会報

<第49号> 2015年(平成27年) 5月25日(月) 発行
<http://www.atsukou-dousou.org>

旧制中学卒業者 3,915名
新制高校卒業者 26,059名
合 計 29,974名

発行
神奈川県立厚木高等学校同窓会
編集
厚木高等学校同窓会広報委員会
TEL 046 (221) 4078
FAX 046 (222) 8243



ゴールデンウィーク恒例の「第15回地引綱」が晴天に恵まれた去る5月4日に開催。参加者も子供を含め過去最高の190名以上が集った。締めめの厚高校歌の太鼓囃は、眼前の江ノ島にも届きそうだった。



産経新聞社役員会議室で行われたさくら戸陵会の第2回総会(記事2面)。女性の会のはずが、参加者の半数近くが男性でした。

熱き想いを糧に



同窓会会長 曾根 秀敏(高14回)

新緑の候、同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、私、昨年の同窓会総会におきまして、計らずも会長にご推挙いただき、大役を担うこととなりました。鍾錚たる歴代会長をながめますと誠に汗顔の至りですが、同窓の皆様のご支援ご協力を賜りながら、誠心誠意努める所存でありますので、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

同窓会の発足は明治41年とのことですが、爾来今日まで母校の発展と共に100年有余の連綿とした歩みを誇っているところです。そして今では、連合体としての厚木連合戸陵会や県外の支部も含め、26支部と堂々たる陣容を整えるまでに至りました。

かかる同窓会組織の飛躍的發展は、大きな節目となった母校創立100周年を契機として、並々ならぬ献身的なご尽力をされました関係各位の賜と深く敬意を表する次第です。

加えてその後の創立110周年における女性の会「さくら戸陵会」の発足も同窓会活動の更なる活性化に向けて、大きな推進力となるものと確信しております。

このような組織の歩みを振り返り、改めて携わられた方々に深甚なる謝意を表しますとともに、築き上げられてきた「組織」と「活力」を、次の目標となる120周年に向けて、弛ませることなく堅持・発展させること、これが大きな使命と、その責任の重さを痛感しております。

かかる想いを巡らす中で、本当に勇気付けられ、励みとなりますのが、人生未だに余熱ありとも言ふべき、同窓諸氏の溢れんばかりの愛校心と母校の発展に寄せる想いの熱さであり、そして県下有数の輝かしい伝統校として、県高校界をリードする地位を継承しながら、更なる発展に向けて挑戦している母校の頑張る姿であります。

これらのことを大きな糧として、新たな役員一同、次なる120周年へののしつかりとした繋ぎの責務を果たすべく、運営の基本を本部と支部の「連携強化」と「課題共有」に置き、伝統校なるが故の社会貢献事業も模索しながら、支部活動の支援を始めとする諸課題に取り組んで参りたいと存じます。質の高い同窓会を目指して、ゆっくりであるが着実に。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本部活動報告

平成26年度の主な事業報告

平成26年度は、厚木高校同窓会において節目の年度となった。平成26年6月21日開催の総会に...

藤沢戸陵会主管の「地引綱」をスタートに、秋の愛川戸陵会主管の「憶い出の杜に親しむ会」まで、各種事業に多くの会員の参加をいた...

女性会員の活動も活発で、大井理恵子副会長(高18回)を中心としたさくら戸陵会では、産経新聞社に同窓の熊坂隆光社長(高19回)を訪ね、最新のデジタル技術による新聞編集など、大変興味深い話題に、参加者は大満足であった。

また、曾根新体制においても重要な役割を担う理事会についても、各支部から新たな推薦をいただき、平成27年2月11日に新メンバーによる理事会を開催し、曾根会長が所信を述べるとともに、理事相互...

さくら戸陵会

産経新聞社内で第2回総会開く

会長 大井 理恵子(高18回)

11月6日、さくら戸陵会第2回総会が東京大手町産経新聞社役員会議室をお借りして開催されました。同時に熊坂隆光産経新聞の講演も行なわれました。

朝8時、海老名駅前を定刻に出発したバスは、皆の楽しい声と応援歌の合唱に途中降り出した雨も寄せ付けない盛り上がりで、最初の見学地「皇居東御苑」に到着いたしました。

大都會の真ん中の緑多い江戸城跡、二の丸庭園から天守台へと広い苑内を高校時代の懐かしい話などをしながらのゆっくりとした散策でした。途中十月桜が咲いているのがとても印象的でした。続いて産経新聞への移動です。熊坂社長も一緒に昼食、その後急遽かけつけて下さったオペラ歌手の森口賢二さん(高44回)に校歌を歌っていただき、気を引き締められる思いでの総会でした。さくら戸陵会独自の行事は昨年...

の懇親を深めた。

本部役員改選とともに広報委員会の役員改選も行われた。広報委員会で落合重治副会長(高13回)を委員長に、各支部から推薦の20名の委員で組織され、11月から活動を開始した。

石川範義氏が 旭日小綬章を受賞

石川範義前同窓会長(高10回)には、平成26年11月3日、旭日小綬章を受章され、11月11日には東京プリンスホテルにて勲記、勲章の...



伝達を受け、続いて皇居にて天皇陛下の拜謁を受けた。このたびの石川氏の叙勲は、長年の産業振興功勞に対して、その功績が認めら...

れたもので、歴史ある厚木高等学校第8代同窓会長としての活動も、受賞の一助となった。

平成27年1月22日に開催の祝賀会には曾根会長をはじめ多くの同窓生が参加し、石川氏の叙勲を共に喜び合った。

(石川範義氏の略歴)

昭和15年生まれ。県立厚木高校卒。現在75歳。株式会社元湯代表取締役。厚木市観光協会会長(公社) 神奈川県刊行協会理事、平成19年11月から厚木商工会議所会頭。平成24年11月から一般社団法人神奈川県商工会議所連合会理事。

館盛前会長(高14回)は 旭日雙光章

2月28日の受賞記念祝賀会でのご本人挨拶から。

「この度は、はからずも旭日雙光章の榮に浴しました。想起こそば地方自治に携わること43年間、祖母や両親、家族をはじめ、檀家の皆様、自分を育てていただいた中...

その後社長を囲み、プロカメラマンによる記念撮影。続いて社内見学、ここでは刻々と変わる国内外の情報を送り出す現場に驚きと改めて世界のあらゆる所で、真実を伝えるベンの重さを感じたものでした。

最後に、『号外』さくら戸陵会訪問を出して頂き、一同大感激をしての一日でした。

今回、熊坂社長はじめ産経新聞秘書室の皆様、曾根同窓会会長、そして同窓会の皆様、有給休暇をとって下さいました佐藤校長、さくららの会員の皆様と大勢の方々のご協力により無事開催できました事、心より感謝し御礼申し上げます。ありがとうございました。



同窓生らの祝福を受ける館盛夫妻

お知らせ

総会は6月27日(土)

平成27年度同窓会通常総会及び懇親会を次の通り開催します。

日時/6月27日(土) 午後1時より

会場/厚木商工会議所 5階大会議室

会費/3000円(懇親会費)

支部会総会開催予定

伊勢原戸陵会

5月9日(土) 午後3時

会場/こみや

玉川森の里戸陵会

5月16日(土) 午後5時

会場/玉川館

綾瀬戸陵会

5月30日(土)

会場/さがみ野「揚葉」

厚木戸陵会

5月31日(日) 午前11時

会場/さがみ野「揚葉」

厚木戸陵会

6月7日(日) 午後5時

会場/上海菜館

愛川戸陵会

6月20日(土)

会場/大進館

『第10回青春かながわ校歌祭』のご案内

ちしています。

日時/10月17日(土) 11時半開演

会場/秦野市文化会館(小田急線 浜川町駅より徒歩20分)

練習日/8月下旬、厚木高校中庭にて

参加申し込み/各戸陵会支部取りまとめ

秦野駅・浜川町と秦野市文化会館の往復バス予定。校歌祭終了後、戸陵会主催(秦野戸陵会主管)の交流懇親会の計画あり。

同窓生の皆さん、今年の校歌祭は秦野会場ですが、「校歌」「燃える闘志」と「健児は起(た)てり」の3曲と一緒に合唱しませんか。応援団OBの指揮協力と吹奏楽部OB(戸室の丘ウインドオーケストラ)の伴奏に合わせて、世代を超えた同窓生と現役生が共に歌う校歌祭に参加されれば、必ずや皆さんに「戸室の丘の青春時代」を楽しく振り返るひと時となることでしょう。大勢のご参加をお待

同窓林事業の取り組みと 会費納入、財源確保の課題

同窓会副会長 足立原 泰(高12回)



理をゆだねていますが、会員の高齢化などに伴い課題が生じつつあります。また毎年11月の「懐い出の杜に親しむ会」の事業は愛川戸の杜に親しむ会が、同窓林の契約更新・活用とあわせて今後の同窓会事業としての取り組み方も課題の一つと思われます。

同窓林は昭和15年4月1日に愛川町と「報国造林契約書」を交わして、愛川町の町有林約10ヘクタールを50年間借用したものです。戦時中は生徒が勤労奉仕として植林に励み、戦後の新制高校になつてからも下刈りや枝打ちなどの手入れのため山に入って造林作業をしていました(高13回生頃まで)。しかし、昭和30年代に入り樹木が成長し手入れの必要がなくなつたことや時代状況、社会環境の変化に伴い成長した杉や檜も用材としての価値が低くなり、同窓林が忘れられがちになっていました。平成2年4月に愛川町と改めて「分取造林契約書」として更新し、平成32年3月31日までの30年間借用することになりました。

そして、創立90周年事業の一環として同窓林の一部を整備して、平成4年6月7日「懐い出の杜」と名付けて記念碑を建立し、創立100周年事業では戸陵会各支部が記念樹を植え、その後10数年の間は愛川戸陵会と各支部が協力して年1回下刈りなどをして現在に至っています。

そして今は愛川戸陵会に維持管理をゆだねていますが、会員の高齢化などに伴い課題が生じつつあります。また毎年11月の「懐い出の杜に親しむ会」の事業は愛川戸の杜に親しむ会が、同窓林の契約更新・活用とあわせて今後の同窓会事業としての取り組み方も課題の一つと思われます。

城所文洋さん(高11回)の死を悼む

前同窓会会長 近藤 俊二(高6回)

9月22日の通夜祭参列者の多さにびっくりしたのは、私ばかりではないだろう。玉串奉奠は延々と1時間40分、そこに彼の74年の生き様が全て濃縮されていたように私は思った。いなかのおっちゃん然とした飾らない明るさ・生真面目さ・面倒見のよさ等、これらは家族に対しては勿論、地域・教員・先輩・後輩誰に対しても分け隔てのない彼の徳であったように思う。

私は、彼の高校ソフトテニス部の5年先輩にあたるが、高校生時代の彼をあまり知らない。テニス部OB/OG会長になった時以来、会計さんとして、また同じ教員仲間として、親しくして頂いた。

後輩である現役高校生の県大会や関東・全国大会の大活躍を新聞の切り抜きをコピーしてきて、鮮やかに語ってくれた情景も今は懐かしい。

晩年、体調を崩してから後輩後藤氏の選挙活動で私を熱く支えて下さった。先日、毛利台小学校近くの高台にある墓前に選挙報告に出かけた。もしかしら墓から抜け出して票集めに動き回っていたかも知れない彼に「静かにお休み下さい」と言っただけだが、彼のことだから今も千の風に乗って、家や畑の周りを飛び回っているのではないかと・・・キドコロありがとう。

軟式テニスを 通して

神崎 慎(高13回)

城所先輩の姉さんと私の姉が親友だった関係で、小学生の頃から私は城所先輩のことも良く存じ上げていました。南毛利中学校へ入学したとき、真つ先に軟式テニス(現在はソフトテニスと名前が変わった)のコートへ行き入部しました。そのとき指導の素人である私に手取り取りで指導をしていたのが城所先輩でした。

城所先輩のチームは厚木地区で優勝、私の同級生では内山・鶴崎・石井・神崎、小島・久島組と3チームが優勝経験、みんな城所先輩に教えていただいた仲間でした。

厚高に入学しても城所先輩を頼って軟式テニス部に入部し教えるを請いましたが、残念なことに途中退部、部活動を全うできませんでした。その反動か大学ではテニス

先生の愛情

西尾 真言(高37回)

「先生は(本来の意味での)国粋主義者ですよ」と、問うた事がある。すかさずいつもの口癖で「あたりまえじゃんかよ」と、答えて返ってきた。国を愛し、地域を愛し、そして何よりも厚木高校を、そして教え子を深く愛してくれた。だが、父の影響でリベラルな思想を持つ私に「いいじゃんか」

三味でその後ずっとテニスを続けていました。

就職してしばらく厚木を離れていましたが、再び厚木に戻り何か故郷に還元をしなければと思つていたところ、城所先輩から厚木高校ソフトテニス部のOB/OG会に誘われ、再び厚高ソフトテニス部に関わり合いを持つようになり、今では時々テニスコートに顔を出すようになりました。みんな城所先輩の「面倒見のよさ」によるものでしょう。

その後南毛利戸陵会長であった城所先輩から「会長を引き継いでくれ」との依頼があり、現在に至っています。この同窓会運営でも城所先輩に頼りつきりでしたが、そんな中の昨年の訃報でした。病氣療養中も時々先輩を見舞つてはいましたが、その明るさと病気に負けないぞという強い意志には圧倒されていました。

今後とも我々の心の中で城所先輩は生き続けられるでしょうし、その意思を引き継いで行こうと心に誓っています。

と言いつく受け止めてくれる。ソフトテニス部の合宿には生徒と相手ができるのを楽しみにして、亡くなる数か月前にも「医者者に『絶対ダメだ』と言われたんだけど、ちょっと打つてみたら転んだ。奥さんに怒られるから絶対内緒だぞ。」と言うほど、テニスも愛していた。でも奥様は「知ってたわよ」と仰っていた。「退職して公民館の仕事も終えて、やっとのんびり奥さんを旅行に連れていけると思つたのに」と、残念がつていた。

特に母校愛は強く、関東大会に団体初出場した時は「横断幕もない出場校は、恥ずかしいですよ」と言うので、「OB会でお金は出すから女子の作るんだぞ」と、必ず公平に生徒愛を示してくれる。先生のおかげで、それから9年間男女どちらかが関東大会インターハイに出場できた。すると「毎年OB会ができる」と喜んでくれて、OBから生徒に出場祝を集めてくれた。

毎年予選会が終わって、良い結果の時は先生の喜ぶ声が聴きたくて、すぐ電話して報告。結果が出なかつた時は数日遅れて電話して既に新聞で知っていた先生は優しく一言「ご苦労さん」と言ってくれた。

今年も、予選会の時期が迫ってきた。私は母校のコーチは退いてしまったが、我々を見守つてくれているあの墓前に今年も結果に係わらず報告に行くつもりだ。だが、あの愛情いっばいの声が返つてこないのはさみしい。でもきつとらんみりしてたら、愛情たっぷり「だめじゃんか」と、あの声が聞こえてくるような気がする。



後輩への面倒見のよさはピカ一だった

学校情報

4月1日付けの人事異動により、熊坂和也副校長(高32回)が新城高校、木村則夫教頭が神奈川工業高校に転任され、新たに赤井英明副校長(上鶴間高校)と本校出身(高33回)の荒川憲行教頭(大和西高校)がそれぞれ着任されました。

また、校内役員として校歌祭等に尽力いただいた木村和彦先生(高32回)が鶴嶺高校に転任され、大和東高校より菅井久男先生(高31回)、相模原青陵高校より高橋祐有先生(高56回)が着任されました。菅井先生、高橋先生には今後同窓会の校内役員としてもご尽力いただきます。

同窓会の熱い思いに感謝して



校長 佐藤 信行

厚木高校に着任して1年、私が今までに勤務したどの学校よりも同窓会の皆様が、学校に対してとても熱い思いを持っておられることを感じました。

昨年度はいくつかの戸塚会の総会や行事に参加させて頂きました。皆様が厚木高校で過ごした日々を懐かしく思うだけではなく、厚木高校の卒業生であることを誇りに思い更には、現在の厚木高校がより良くなることを心から願って下さっていることが強く伝わって参りました。

厚木高校が文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SHS)に指定され2年が過ぎました。SHS事業の目的の一つにグローバル教育の推進があり、昨年度からはアメリカのエレノア・ルーズベルト高校との交流を始めました。2月には生徒6名がアメリカに行き、向こうの学校でのボスターセッションで研究成果を発表して来ました。

4月1日付で大和西高校より着任いたしました。最初の日は、30数年前に毎日通った道を本厚木駅からゆつくりと歩いて学校に向かいました。3年間バスケットボール部で汗を流したこと、戸塚祭でテーマソングを歌ったことなど、とにかく楽しく充実した高校時代を思い出しているうちに、あつという間に涙のき坂に到着しました。そして桜の咲く正門を見上げたとき、懐かしさと同時に身の引き締まる思いがしました。

先人の方々が築き上げてこられた110年の伝統を継承していく責任を感じております。また、我々の時と変わらぬ制服を着た生徒達と学校生活を送ることができ喜びは、言葉に言い尽くせません。機会があるごとに一緒に校歌を歌えることが今から楽しみです。

この4月1日より、相模原青陵高校より母校である厚木高校に着任いたしました。この人事異動を聞いたときは、伝統ある母校へ教員として戻ってくる事が出来ることをとても嬉しく幸せに感じました。

今の自らの人生を変える大きな変化の時、そして訓練の時だったからです。強い志、そして良き仲間をもつことで、挫折や葛藤をしながらも努力や挑戦を続けることができるということ、この厚木高校が教えてくれました。

厚木高校着任にあたって



副校長 赤井 英明

創立110年を超える歴史と伝統あるこの厚木高校で、すばらしい生徒の皆さんの成長を支援させて頂きたくことになり、責任の重大さとともに身の引き締まる重いです。

厚木高校の生徒の皆様、保護者の皆様、同窓会の皆様の期待に応えられるよう尽力してまいりますので、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

厚木南(現厚木清南)高校を振り出しに、上溝南高校、川和高校、大和東高校の教壇に立ち、このたび我が母校厚木高校に着任いたしました。

線順に帰らされるのを横目に、小田原線通学の自分たちは6校時まで授業をやりました覚えがあります。そんな学校に通っていたことを、今でも誇りに思っています。

不易流行



教頭 荒川 憲行(高33回)

卒業時の夢叶う

高橋 祐有(高56回)

在学中、大雨の日の授業中に電車が次々止まりはじめても、まだ動いている路線の生徒は帰しても

あるかとは思いますが、自分を鍛え、育ててくれた母校に感謝しながら、後輩たちの指導に専心致したいと存じます。どうぞ、よろしくお願いたします。

31年ぶりの母校に恩返しを



数学科 菅井 久男(高31回)

厚高生 全国で大健闘

「軽音楽部」

11月24日に滋賀県で行われた「第4回とよさと軽音楽甲子園」で厚高軽音楽部の「上昇稀琉」が滋賀県知事賞を受賞した。

上昇稀琉は2年生5人のガールズバンド。大会で披露した曲について聞くと、「リコリス」は花の名前から取っていて、花言葉である誓いをコンセプトに作った。大会で負けてしまった悔しさや、嫌なことを乗り越えようとする曲。大会はライブとは違って軽音楽をやっていない人にも聴いてもらえるので、とても緊張した。終わってみると楽しかったし、気持ちよかったです」と大会の感想を話してく

また、11月16日、相模原市民会館で開催された「第11回県高校総合文化祭軽音楽コンクール」において、厚高軽音楽部の「みかつきも」がグランプリを獲得した。

こちらも2年生5人で構成されるガールズバンド。「みかつきも」は他にも相鉄ホールディングス主催のストリートライブでも決勝戦進出など多くの実績を残している。

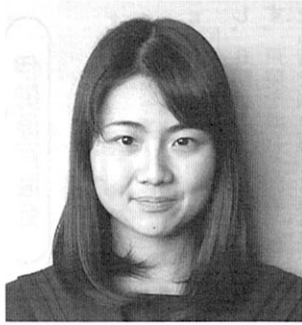
11月29日、ダンスドリル部のチーム「MPISH」は東京体育館で行われた「ALL JAPAN Cheer Dance Championship 2014 チアダンス部門 高校生編成」で審査員特別賞を獲得した。この賞は部門の枠を越えた出場全チームの中から2チームのみが受賞。

第39回全国高等学校総合文化祭新聞部門の予選で入賞し、7月に滋賀で行われる全国大会出場を決めた。また、大東文化大学主催の「全国新聞コンクール」でも奨励賞を受賞。

『厚高新聞』第249号 (27年3月2日) より抜粋

第47回 茅賞

SS研の 中舎琴恵さんに



茅賞は卒業する3年生の中で学業、部活動、人物などあらゆる側面に優れた人物に贈られる。第47回目となる今年度の受賞者は中舎琴恵さん(3B)だ。この賞の受賞について「名譽ある賞なのでびっくりした。本当に3年間、色々な先生や友人、後輩、家族に物凄く支えられて頂けた賞なので、感謝でいっぱい」と周囲への感謝を述べた。

また、SS研の部員として高校生バiaoコンで優勝、東工大学生も参加するバiaoものつくりコンテストで実験賞、優秀高校生賞を受賞した。SS研での活動について

平成26年度 部活動大会実績(県大会ベスト8位以上)

部活動名	受賞日	具体的名称	種目・団体	大会レベル	成績
吹奏学部	4月5日	第12回ジュニア打楽器アンサンブルコンクール	団体	全国大会	優秀賞
ソフトテニス部	4月27日	ソフトテニス関東大会団体県予選	団体	県大会	5位
ソフトテニス部	5月11日	ソフトテニス高校総体県予選	個人	県大会	5位
ソフトテニス部	6月14日	ソフトテニス高校総体県予選	団体	県大会	5位
器械体操部	6月29日	平成26年度神奈川県体操競技高校生大会	個人総合	県大会	6位
軽音楽部	7月19日	NHKスクールライショウバンド日本大会		東日本大会	ベスト8
ソフトテニス部	7月27日	高校総体ソフトテニス大会	個人	全国大会	1回戦突破
新聞部	7月27日	全国高等学校総合文化祭	年間紙面審査賞	全国大会	優良賞・美文賞
吹奏学部	7月30日	全国高等学校総合文化祭		全国大会	参加
軽音楽部	8月2日	第14回高等学校軽音楽コンテスト神奈川県大会		県大会	奨励賞(3位)
軽音楽部	8月2日	第14回高等学校軽音楽コンテスト神奈川県大会		県大会	軽音楽連盟会長賞
吹奏学部	8月8日	神奈川県吹奏楽コンクール		県大会	銀賞
軽音楽部	8月18日	OTODAMA 甲子園 2014		県大会	優勝・ベスト8
軽音楽部	8月20日	第2回全国高等学校軽音楽コンテスト		全国大会	優秀賞
ダンスドリル部	8月24日	USA School & College Competition 2014	Song/Pom Dance 部門-Advance	全国大会	2位
茶華道	9月7日	Ikenobo 花の甲子園 2014 関東地区大会	団体	関東大会	ハーモニー賞
陸上競技部	9月21日	平成26年度第56回神奈川県高等学校新人陸上競技大会	8種	県大会	8位
陸上競技部	9月28日	平成26年度第56回神奈川県高等学校新人陸上競技大会	4x400mR	県大会	7位
ダンスドリル部	10月26日	ALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPIONSHIP 2014 関東予選大会	Cheer Dance 部門	地区大会	4位
新聞部	11月6日	第64回神奈川県高等学校新聞コンクール		県大会	優良賞・美文賞
軽音楽部	11月16日	第12回高等学校軽音楽コンクール決勝	団体	県大会	グランプリ県知事賞
軽音楽部	11月16日	第12回高等学校軽音楽コンクール決勝	団体	県大会	奨励賞(3位) 美文連会長
軽音楽部	11月16日	第12回高等学校軽音楽コンクール決勝	団体	県大会	専門部会長賞
軽音楽部	11月23日	SOTETSU LOCK ON MUSIC グランプリ大会	団体	全国大会	出場
軽音楽部	11月24日	第4回とよさと軽音楽甲子園	団体	全国大会	準優勝
ダンスドリル部	11月29日	ALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPIONSHIP 2014 決勝大会	団体	全国大会	6位審査員特別賞
吹奏学部	12月21日	神奈川県アンサンブルコンテスト		県大会	銀賞
軽音楽部	1月11日	OTODAMA 甲子園新人戦 2015	団体	県大会	優勝
軽音楽部	1月23日	YDA オリジナルミュージックコンテスト 2014	団体	全国大会	準優勝
軽音楽部	1月23日	YDA オリジナルミュージックコンテスト 2014	個人	全国大会	優秀賞(3位)
ダンスドリル部	1月31日	Cheerleading and Dance Championship USA Competitions 2015 (Regionals)	団体	東京大会	2位
新聞部	3月2日	大東文化大学主催第44回全国高校新聞コンクール		全国大会	奨励賞
ダンスドリル部	3月27日	All Japan Cheerleading and Dance Championship School&College Nationals 2015	団体	全国大会	2位

過去5年間の主要大学合格者数

〔現役・既卒の合計数 ()は既卒者〕 平成27年4月8日現在

学校名	27年春	26年春	25年春	24年春	23年春
国立					
京都		2 (1)	2 (2)	1 (0)	()
千葉	3 (0)	4 (0)	4 (3)	8 (1)	3 (1)
筑波	4 (1)	4 (1)	6 (1)	5 (1)	3 (1)
電気通信	2 (0)	4 (1)	2 (1)	3 (0)	5 (4)
東京	1 (0)	3 (1)	2 (1)	3 (0)	3 (1)
東京外国語	3 (0)	7 (1)	4 (0)	2 (0)	2 (1)
東京工業	5 (0)	6 (0)	10 (1)	5 (3)	6 (0)
東京農工	2 (0)	3 (1)	2 (0)	1 (0)	6 (2)
東北	7 (2)	2 (0)	3 (1)	1 (0)	2 (2)
一橋	2 (0)	5 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (1)
横浜国立	21 (0)	12 (2)	20 (3)	17 (4)	21 (3)
国立計	86 (15)	77 (10)	80 (18)	72 (16)	71 (27)
公立					
首都大学東京	18 (1)	17 (2)	23 (5)	15 (2)	11 (3)
横浜市立	5 (1)	7 (0)	2 (0)	5 (0)	7 (1)
公立計	27 (3)	27 (2)	29 (6)	23 (2)	20 (4)
私立					
青山学院	76 (17)	54 (7)	72 (11)	63 (13)	53 (8)
神奈川	17 (6)	19 (3)	17 (3)	25 (14)	18 (8)
北里	18 (6)	24 (4)	20 (4)	16 (5)	19 (3)
慶応義塾	37 (4)	43 (3)	48 (11)	35 (6)	33 (4)
上智	32 (4)	34 (3)	55 (13)	24 (7)	32 (3)
専修	9 (3)	25 (2)	28 (8)	21 (8)	32 (12)
中央	76 (9)	64 (10)	78 (18)	62 (16)	79 (26)
東京理科	36 (11)	39 (13)	51 (9)	42 (11)	36 (4)
日本	42 (8)	39 (8)	32 (6)	27 (3)	23 (7)
日本女子	13 (4)	11 (0)	10 (1)	4 (1)	18 (2)
法政	76 (17)	61 (2)	56 (16)	46 (14)	36 (10)
明治	120 (16)	104 (24)	111 (24)	96 (23)	79 (21)
明治学院	23 (4)	42 (8)	43 (11)	43 (8)	30 (3)
立教	44 (6)	41 (2)	51 (7)	42 (11)	29 (6)
早稲田	78 (13)	71 (7)	101 (13)	94 (22)	79 (21)
私立計	959 (198)	924 (137)	1059 (210)	880 (220)	772 (207)

最近5年間の進学状況

卒業生進路	27年 高67回	26年 高66回	25年 高65回	24年 高64回	23年 高63回
国公立大学	88	81	76	69	54
私立大学	178	179	191	175	180
短大/大専校	2	2	1	3	1
専修学校等	2	0	0	1	2
進学者数計	270	262	268	249	237
入学率	77%	83%	84%	78%	75%
卒業生総数	351	315	319	319	316

『厚高新聞』第249号 (27年3月2日) より

伊勢原戸陵会

半世紀前の想い出

坂間医院院長 坂間 晃 (高13回)

昭和36年(1961年)に卒業し、6回目の干支を迎えた年男です。戸陵を離れて50有余年、茫茫たる昔を振り返ってみます。

英語は鎮目先生(皆はチンメさんと呼んでいた。親戚です)で「小野圭」の参考書を丸暗記するよう言われ、これが大変役に立った。今でも各種のフレーズが自然に口から出てきます。

苦手の数学は大生先生(3年時担任)で、黒板の前では何時も立ち往生していました。父も旧制厚木中学(中23回)では数学が苦手で「坂間の数学」といってよくからかわれたと話しています。

年中行事の田村堀マラソンに備えるためです。当日は校門を出て坂を下り、愛光病院、松枝町を通り水引を経て船子の辺りで戻り、恩名から戸室の坂の登りになります。

のんびりした学年のためか、翌年の入試は大勢アウトになりました。私が、私を含め仲間の殆どは一浪で志望校に入学できました。

社会は大畑先生で、日本人の起源についてのレポートでは当時話題の江上波夫の騎馬民族学説を取り上げたところ痛く感心されました。

第46回総会開催

秦野戸陵会

は静かでした。ノンポリが多かったのかもしれない。

平成26年11月8日(土)午後4時から、市内「やなぎや本店」にて第46回秦野戸陵会総会が開催され、報告等が承認されました。

また役員から「平成27年の『第10回青春かながわ校歌祭』は、幹事校が秦野高校で、秦野市文化会館を会場に開催の予定です」との



「校歌祭」での「おもてなし」を決議

ゴルフで「懇身」

会長 高橋 力 (高18回)

佐藤順一先輩(中37回)の鶴の一声で始まったゴルフコンペは、

3月15日の中伊豆グリーンクラブで41回目を迎えた。年2回実施しているの、早20年経った事になる。

秦野戸陵会としても「私達のふるさと秦野の地に多くの同窓生の皆様をお迎えする事になる。」との思いから、「出演後の懇親会を当地で開催し、秦野の良さを広く知って頂いてはどうだろうか。」懇親会について企画して、同窓会の本部役員会などの場に提案していこ

吹奏楽と校歌祭

小川 幸雄 (高24回)



私と吹奏楽との付き合いは長く、高校のころは吹奏楽部22期(これは、吹奏楽部創設からの我々独自の表現です)でホルンを担当しており、卒業後も市民の吹奏楽団で35年ほど演奏を続けていました。

あつた。年1回はバスでプチ旅行がてら、中伊豆グリーンクラブへバスの中での松本茂(高20回)氏のウマ予想が最高でした。

うではないか。」との意見が出され、会員の賛同が得られました。秦野戸陵会では、心ばかりの「おもてなし」にはなりますが、谷会長を中心に、多くの同窓生の皆様に楽しんで頂けるよう努めて参りたいと考えております。

そんな時、新井君から「青春かながわ校歌祭に参加したいので連れて行って欲しい。」と頼まれました。私は、厚木高校が幹事校だった『第4回青春かながわ校歌祭』から参加していたので、彼と一しょに参加することにしました。

この時の『第6回校歌祭』は、神奈川芸術劇場で開催され、厚木高校からは100名を超える参加者がありました。例年、CDを伴奏に歌っていたのですが、当日になってCDが使えず、無伴奏で歌うことになりました。

私も例年のCD伴奏に満足していなかったのですが、すぐに賛同し、さっそく年齢の近い吹奏楽部OBに声をかけて仲間を増やしていきました。

が発足しましたが、さて、それがらが大変でした。上手に吹けないこともありましたが、校歌や応援歌の楽譜が無いので、私が学生の頃は、手書きで楽譜をつくって演奏していました。が、「現在は、学校にも楽譜は残っていない。」とのことでした。

この楽譜を基に、かすかな記憶から音符を追加し、なんと吹奏用の楽譜を仕上げました。最初のお披露目は、創立110周年祝賀会、同期の松田卓君の指揮で演奏して、大盛会となりました。

それまでは校歌祭で吹奏楽を入れている学校はまだ少数でした。演奏そのものは完璧とはいきませんでしたが、大いに盛り上がったことは言うまでもありません。

今年が節目となる『第10回青春かながわ校歌祭』が秦野市文化会館で開催されます。今回は、応援団OB会の方々と相談し、新しい趣向を凝らした演奏をしたいと思っています。

平塚戸陵会

旧制厚木中学の想い出を語る

宮川 績 (中35回)

我々クラスは大正12年の関東大震災の時に生まれた、所謂震災児である。定員150人に対し志願者は250人、100人が落とされた。大東亜戦争の始まる前に卒業した為、勤勞奉仕などなく、兎狩りや田村堀りマラソンなど、戸室が丘での5年間の学園生活をフルにエンジョイした最後のクラスである。

当時の第6代永野毅校長(中1・旧制二高・帝大)は進歩的で、我々在校生に夢と希望を与えて下さった。昭和11年、入学早々学校の下のプール造成ではモッコを担がされた。プール開きには全校生徒の見守る中、中田先生の水中妙技や、元オリンピック水泳選手の大橋水泳も見学。それまでは、水泳は相模川でしごかれた。その頃相模大



運動会の華、5年生全員による模擬戦

橋の北側の河川敷には小型飛行機の飛行場があった。全国の中学に先かけてグラライダ一部が創設された。その滑空訓練は、右の厚木飛行場や長野県霧ヶ峰で行われた。年配の方ならご存知と思うが、昭和27年東京から福岡に向かった日航のもく星号が三原山に墜落、漫談家の大辻司朗氏ほか37名が亡くなった事は有名な話である。当時の機長はアメリカ人で日本人には操縦させなかつたので、やむを得ず、グラライダ一部1期生の関山哲雄(中31回)先輩は事務長として搭乗し、殉職された。後日部員がご自宅にお見舞いに行ったら、お母さん曰く、「内の哲雄が操縦していたらこんな事故は起きなかつたのに」と涙ながらに語られたと言う。戦後は「魁界」なる会を立



我が母校を思う

大和戸陵会

野球部OB 稲泉 卓 (高3回)

登校時、髷代わりの白い風呂敷包を小脇に抱え、通った砂塵舞う中学通りが、県道603号線となり、下校時には辺り一面淡く青い誘蛾灯(蛍光灯)と、蛙の合唱に送られた田園風景も、ビルが林立する立派な駅周辺になった。変わらないのは、母校正門前の

ち上げ、会長は元全日長の麻生氏(中34回)が就任したが、先般解散した。4年生の時の関西旅行は従来往復とも汽車であったが、2、3年前から横浜へ神戸まで大阪商船の南米航路の客船に乗船、チョッピリ洋行気分を味わわせてくれた。この船旅で、2期上の生徒がいたずら半分「我、遭難す、太平洋の藻屑と消えんとす。〇〇丸」なる紙切れをビール瓶の中に入れて流した所、静岡の漁船に拾われ、すわ大変と、捜索船が出動、大騒ぎとなったが、その後本船は無事神戸に着いている事が分かり一件落着、今ではとても考えられない。終戦までは日本は完全な徴兵制で、男子は20才で徴兵検査を受け軍務に服さねばならなかつた。11月の明治節には毎年の運動会が催された。その日は雨がふらないというジンクスがあった。運動会の華は5年生全員による模擬戦(写真参照)であった。武装した1個中隊の5年生が校庭の南から、煙幕の中、鉄条網を破り、空砲を撃って進撃する様は正に実

戦さながら。そのうち自動車部員がボロボロのダットサンにボール紙で作った戦車の出現には観衆は大喝采であった。最後は着剣して寄宿舎前で突撃ジエンド。当時5年生全員には、38式歩兵銃が貸与され、常時手入れをしておかないと配属将校の目が光っていた。私は前記4年制の時の洋行気分

坂道と銀杏並木、ヒマラヤ杉。校舎の建物には昔の面影が残っているものは全くない。私達高校3回の卒業生は、昭和20年4月厚木中学生となり、昭和26年3月、厚木高校生として卒業した。所謂現在の中高一貫校と同じで、6年間には当然クラス替えもあつたので、自然と友人の数も多くなり、現在に至っている。私は東京で育つたが、戦災に遭い相模原市の淵野辺に疎開し、昭和20年6月、厚木中学に転校したのである。振り返って見れば長いので短く、短い様で長い年月が立ち、母校を卒業して今年で62年を数える事となった。

「やる気を出そう」 県下有数の進学校に入校出来、野球部に入部した。部活動として野球をし、無事3年を過ごし良い大学に入学したい。野球は高校まで。この様な考え方は野球部は強くなる。良い大学に入學しても野球を続けて行く。その事により後輩も先輩を目指す。この様にすれば、高校時代の勉強も野球も進歩するものと考えている。野球部OBとして現部員の皆さんのご健勝を祈念いたします。

私達は厚木中学だ、君の先輩の山口生徒(中31回)と本杉生徒(中32回)は、二人共、学期長の一番だぞ、頑張れ」と激励された。2年連続1番をとった中学は全国にもなく当時は鼻高々であった。山口薫大尉は16号海防艦の艦長として出撃したがサイゴン沖にて魚雷攻撃で船は撃沈され戦死、少佐に進級。本杉良三大尉は、歴戦の勇士で生残られ、戦後は厚木市の教育長をされるなど活躍された。愛川町と同窓林も永野校長の発案である。

「やる気を出そう」 前に述べた様に、野球道具もない時代だったので、厚木飛行場内にあるグラウンドで駐留米軍と何か試合をしに行つた覚えがある。目的は試合ではなく、試合終了後に米軍が気前良く呉れるバットやボール欲しさで、貴重品でもあつた。ボールは規格内とは言え、一回り大きく重たかつたし、バット等はプロレスでもやりそうな大男

が振るバットなので、とても私達が使えるものではなく、先端を鋸で切つて練習に使つたものである。練習で破れたボールは、毎日1人何個と割当て、ボールの皮を裏返し、タコ糸で全面縫い直す。部員時代で何個ボールを縫い直したのだろうか。この様なボールの縫い直し等は、現部員には考えられない事であろう。練習前にボールの数を確認し、練習終了後再確認、不足すれば全員でボール探しである。こんな時代もあつたと述べたが、今も昔も我が母校は県下有数の進学校である事は間違いない。そして現部員の多くが、練習後塾へ行つて居る事を知つて、が、何が足りないのではないか。それは何だろうか。一生懸命練習して試合をしている事も判る。私は部員の「やる気」ではないかと考えている。

「やる気を出そう」 県下有数の進学校に入校出来、野球部に入部した。部活動として野球をし、無事3年を過ごし良い大学に入学したい。野球は高校まで。この様な考え方は野球部は強くなる。良い大学に入學しても野球を続けて行く。その事により後輩も先輩を目指す。この様にすれば、高校時代の勉強も野球も進歩するものと考えている。野球部OBとして現部員の皆さんのご健勝を祈念いたします。

相模原戸陵会

照手ハナモモとの出会いに感謝

県高校野球ベスト16を応援して

安藤

和次郎(高9回・柔道部OB)

今年は何としても級友の分まで応援するぞと、初戦の小田原球場から始まり4度応援に行った。唯一私用で欠席した2回戦は翌朝の新聞に「真つ向勝負制す」と大きく報道されて、五味主将らの不屈の攻撃によって再逆転の10対8で勝利、日頃の特訓の成果を示して甲子園出場の大豪校を破ったことを知った。3回戦は横須賀球場で勝利し、相模原球場での4回戦は満席のため野球部の父母会席で応援した。各球場では多くの同窓生や支部会員と出会い、毎回の攻撃には盛り上がり、得点時には「健児は起てり」の応援歌を肩組みあつて合唱した。

試合は快勝し横浜球場での5回戦に勝ち上がり、懐に入れた級友の遺影にはハナモモの取り持つ縁を感謝した。

応援中野球部のOBかと訊かれたので柔道部だと答え、20年前に母校の玄関脇に同級生らと「後輩

の邪気を払い良い青春を願って」ハナモモを植樹したことを話すと、毎年開花した木の前で各クラスで記念写真を撮っていると聞き、感動した。

資料「母校に植えられたハナモモの由来」(照手ハナモモを開発した岡部誠氏(高9回・柔道部OB)の平成18年同窓会総会での講演から抄録)「平成6年ハナモモ3品種9本を安藤氏ら9回生有志7人が持ち込み、植栽に当たっては職員会議の許可を必要としたため、第20校長長桶元先生にお骨折りを頂いた。植栽されたハナモモは神奈川県園芸試験場が開発した



座間戸陵会

小林元NHKアナ(高4回)を招き第27回総会を開催

幹事長 山本 まさる(高11回)

「座間戸陵会」(瀬戸宏孝会長・高4回)では、定期総会を去る26年6月15日に定例会場の座間神社「すいめい」で開催しました。

今年で発足27年目を迎える当戸陵会では、毎年同窓会を兼ねた総会を行っており、予算等を審議するとともに、現職の厚高の校長先生をお招きし、厚高の活動状況等を拝聴しております。また総会終了後、各界第一線で活躍の卒業生をお招きし、講演等を開催し、研鑽を深めています。

今回は高4回卒業で、元NHKアナウンサーの小林昭彦氏をゲストに招き「ことばのいいそこ間違いないコレアレ」をテーマに講演を拝聴しました。小林さんは、「NHK俳句」を7年担当し、全国自治宝くじ抽選会の司会も20年以上務めた経歴の持ち主で、まさに「こと

もので、照手紅・照手桃・照手白の3品種で、開発した一人として岡部が在職中に係わり、照手シリーズとして普及を始める時に当時八千代銀行の上溝支店にいた安藤氏に再会、何かと支援を受けたのがそもその始まりです。このハナモモの特性は、枝が横に張らない樹形(ほうき性)で狭い所でも植栽できること、鮮やかな花色、八重咲き大輪で鑑賞性が高いこと、樹形や花色、花卉数等の遺伝特性を解明しながら選抜育成した品種



ゲスト講師は元NHKアナウンサーの小林昭彦氏(高4回)

種。育成地は相模原市横山で、地域に伝わる照手姫伝説の生誕地と伝わっている。品種名は美人で誉れ高い照手姫にあやかり命名したもので、この他にも照手姫(ほうき性)・照手水密(枝垂れ果実用種)があり何れも植物特許的な品種となつていきます。



新生「綾瀬支部」の始動に燃える役員の面々

綾瀬戸陵会

本格活動へ、再始動。

会長臨時代行 八田 誠(高36回)

神奈川県内にとどまらず全国にも厚木高校同窓会の支部がありますが、卒業生も数多く輩出してきた「綾瀬支部」だけは何かこの数年間、殆んど活動がない状態でした。同窓会本部理事会や、他支部からも長年憂いてられ、今回、「綾瀬戸陵会」再始動の運びとなりました。

平成26年9月22日に、同窓会本部の伊藤修治副会長(高17回)ご列席のもと、綾瀬戸陵会からは、会長代行新倉正治(高15回)以下8名出席にて会合を開き、今後の活動方針について話し合い検討しました。形式の上で平成26年度臨時総会という名前で同窓会本部に、数年振りの実績報告として受理される見込です。

これからは、本部からのお知らせや行事案内は勿論、綾瀬支部としての行事も計画していきますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

映画『フラガール』や、三谷幸喜一連作品、スタジオジブリ最新作『思い出のマーニー』、海外作品に至ってはキアヌリーブスにも信頼されている世界的美術監督の種田陽平氏(高30回)の講演を、是非とも実現したいと思ひます。

※昨年5月の「地引き綱会」を初め6月の「役員会・理事会」「通常総会」、8月の「校歌祭練習会」、10月の「第9回青春かながわ校歌祭」への出席(またはオブザーバー出席)を我々数名に薦め、連れだつて下さった伊藤副会長には、心から感謝しています。

厚木連合戸陵会

寒さの中での熱いプレー

ゴルフ委員長 中山 和男(高26回)

平成26年12月15日、快晴のもとで「第9回厚木連合戸陵会ゴルフコンペ」が本厚木カンツリークラブで開催されました。

当日は寒い中でも晴天に恵まれ、114名の参加者の熱いゲームが展開されました。参加者は、厚木連合だけでなく近隣の戸陵会からも参加されており、大いに親睦を深めることができました。

14回)の挨拶から始まり、来賓の皆様からの挨拶。そして、同窓生からの協賛品が多数集まり、参加者の3分の1ぐらいいまでの方に賞品を渡すことができました。成績(競技方法は新ペリア)は、優勝 遊佐 正樹様(高23回) 2位 伊藤 桂様(高16回) 3位 森久保 純生様(高16回) 平成27年度も開催を予定(期日は未定)していますので、厚木連



合戸陵会の皆さんも、今回以上に近隣の戸陵会の同窓生を誘い合っ

睦合戸陵会

「同窓の縁」が導いてくれる すばらしき俳句の世界

大塚 憲二(高18回)

私は今でこそ俳句の世界にどっぷりつかっているが、まだ初学者で句作活動は12年目に入ったばかりだ。3000余の駄句が作ってあり、これがタンス預金されている。俳句を五十六と言ふ。56歳で始めたので命名したが、私にとって特別な年でもあった。

母親が亡くなり、自らの会社が倒産し、破産し、行き場を失い、ひきこもりになり、家でごろごろ読書だけの毎日だった。そんな年の終わり頃、劣悪状況から脱出させてくれた人がいる。高校の同期で米国在住で当時帰国中のリクター香子さん(翻訳家、詩人、俳人)である。彼女は、私の事情など知る

数年後、私は厚木市内で学べる結社を探していた。眼に入ってきたのが40年続く「河原」(主宰 川島彷徨子さん、中22回)だった。連絡をとると、ご子息である川島浩平さん(高15回 現「火燭」選者・幹部同人)が、主宰は亡くなり結社は消滅したが数人の同人達で「海原」という結社が出来ていて厚木市内で、活動しているとの説明をされた。主宰・副主宰は木内彰志、伶子(高6回、後に主宰)ご夫妻である。ご夫妻は角川俳句賞、俳人協会新人賞など俳壇では権威ある賞の受賞者で、全国にその名が知れていた。この結社の中心的幹部同人には、本杉幸雄さん(中40回)、内山宏さん(中41回、26年逝去)、川島浩平さんほか数人の同窓生が活躍されていた。私も、主宰に添削を受けたり、後に句会に参加し指導を受けたものである。この「海原」は平成7年、24年まで続けられた。厚木発の唯一の全国レベルの俳誌だった。広報委員の頃、会員名簿を捲って見て発見したのが倉橋羊村さん(中43回、「波」主宰、現代俳句協会副会長、日本ペンクラブ理事他公職多数)の存在だった。俳壇の重鎮のひとりである。ご自宅を訪問したり著作を頂いたり、親しくさせていただいている。

厚木戸陵会

子供たちと笑顔と共に

元厚木市教育委員長 山本 玲子(高15回)

「わーい、褒められちゃった!」小学生の様な、大学生の言葉。学生に返ったように説明を聴き、にこっとするPTA活動の保護者。少し遠慮しながらほほえみ、実践研究をする教師。睡をキラリと輝かせ、嬉しさをぐっと抑える子供と、得意ポーズをとる子供。さらに褒められた子とその作品を興味深く覗き込む周りの子供たち。すべて「表現活動の指導」で褒められた時の様子であり、どれも素敵な笑顔である。なかでも子供の笑顔は素晴らしい。

民館事業やPTA活動事業の一環として、小学生の表現活動の指導をする機会をいただき、「夏休み宿題教室」を7年間実施。夏休み前に各学校で出された宿題の中から、自分が表したい「絵画やボスター等」を選んで表現活動を行う。学年も違えば課題や表現方法も異なる。興味関心も違えば集中力も違う。なにより当日初めて会う子供たちなので、一人ひとりの性格も分からない。間違いなく言えることは、自主的にも、保護者に勧められてでも「会場で表現活動をしよう!」という子供たちである。「様々な相談や質問」に応えながら個々のイメージを具現化する



る手助けをする。これは課題に取り組む子供たちの素直で豊かな表現と出会う幸せな時間である。心で思うだけでは褒める気持ちには伝わらない。初めての出会いであっても、良い取り組みや表現を褒めて具体的に褒める。褒められた子供たちは「顔が変わり背筋を

伸ばし、更に豊かな表現」へと意欲的に取り組む。それは周りの子供たちにも派生し、実に幸せな笑顔の溢れる時である。これからも、子供たちの豊かな発想と表現、そして笑顔と感動を大切にしていきたい。

この俳句グループは「阿夫利嶺」(主宰 山本つばみさん)という。相武台の飲み屋が句会場の時など参加者16名のうち半数が厚高の先輩後輩だったこともある。主宰の山本さんは元厚高の職員だった人で、夫君は国文学者で元厚高の教師を経験されていた人だった。また、山本さんは我らの国語教師だった中村菊一先生(高2回)が主宰の俳句結社「青芝」出身で、中村先生とは同志、俳友であり、ここを独立されて「阿夫利嶺」を創設されたのであった。同窓の縁を強く感じる一瞬でもあった。

縁は大事にしなければとつくづく思う。私の中年以降の俳句中心のくらしは、まさに同窓の縁の賜物なのである。

小鮎戸陵会

「芝田山部屋と八菅山、そして私」をテーマに 3支部合同研修会開く

頼住 道夫(高22回)

去る1月28日午後5時から、厚木飯山温泉「元湯旅館」にて、石川範義前同窓会会長(高10回)や杉田泰繁厚木連合戸陵会会長(高14回)を始め、多数の来賓のご臨席をいただき、参加28名を得て、小鮎・相川・依知戸陵会による合同研修会を開催しました。

その後、引き続き、芝田山部屋力士3名の参加のもとに、力士たちを励ます懇親会を盛大に実施しました。

研修会は、頼住道夫講師(高22回・日本教育相撲プロジェクト理事長・元厚木市立東名中学校長)による、テーマ「芝田山部屋(元横綱大乃国)と八菅山、そして私」と題し、講演を行いました。

内容は、平成18年に講師の頼住



左から芝田山親方、八菅山、筆者

と芝田山親方との出会い、その後、教え子の八菅山泰道君(本名渡辺泰道)の芝田山部屋への入門のいきさつ、そして現在、厚木市民協働事業として実施している「ドッコイフェスティバル」大相撲厚木市小中学校場所」の概要説明です。

さらに昨年12月、私と芝田山親方、力士2名、床山とともに総勢5名で、香港を訪問し、現地の「日本食品フェスティバル」に参加し、大歓迎を受けたことを熱く語りました。

特に「ドッコイフェスティバル」については、芝田山部屋所属の力士3名を、希望する厚木市内小中学校に派遣し、子どもたちとともに相撲を取って交流を深め、日本の伝統文化を学ぶとともに、心身の健全育成に寄与することを目的にしています。平成26年度は、8つの小中学校で実施し、大きな反響を呼んでいる現状を述べました。

その後、会場を移し、力士たちを励ます懇親会では、高麗の国(幕下・大磯町出身)、八菅山(三段目・厚木市生まれ・愛川町出身)、浜田山(序二段・杉並区出身)の3名が参加し、戸陵会の面々と相撲談義で大いに盛り上がりました。

最後に、応援部OBの難波角三氏(高16回)が、力士たちに温かくも力強いエールを送り、春場所の活躍を祈念しました。

玉川・森の里戸陵会

「昆虫に魅せられて」

玉翠楼の本山勝男氏(高14回)に聞く

丹沢大山国定公園、東丹沢鐘ヶ嶽の麓にある広澤寺の門前に広沢寺温泉「玉翠楼」という温泉旅館がある。落ち着いた雰囲気旅館で多くのお客さんを迎えている。



玉翠楼の本山勝男氏

この「玉翠楼」の応接室に蝶や甲虫類の標本がいくつかに展示してある。保存状況も良く、玉虫の色といふ蝶の形や色といふすばらしい標本で、製作者は宿主的本山勝男氏(高14回)である。

「玉翠楼」には、標本箱が1500〜1600箱ぐらいいり、甲虫類や蝶など数えきれない程の種類の昆虫を標本箱に整理してあるという。そのいくつかを見せて頂いたが、出眼鏡で見るとようなものから大きなカブトムシ、アゲハチョウとい

つた昆虫がきれいに並んでいた。本山氏は小学校高学年の頃から周囲の山々に生息している蝶や蛾甲虫類などに興味を示し、学校帰りに採集し、夏休みの宿題としてお菓子類の箱などを使って標本箱を作り、沢山の標本を提出してきた。高校時代は、文化系では生物部に、体育系では柔道部に所属したが、生物部では小さい時から好きであった昆虫採集や標本づくり熱中していったとのことである。昆虫のどんなところを見せられるに見せられたのか聞いたら、「甲虫類は種類も多く、色が美しく変色しにくい。蝶などは形、色が美しく観察していて飽きない」という声が続いてきた。

つた時など捕虫網やビンなどを携行し採集を続けているという。「かつては七沢でも重要文化財に相当する天然記念物のギフチョウが見られたが、今では残念ながら見られない幼虫の食草カンアオイという植物が育つ環境ではなくなっているからではないか。また隣の地区でみかん畑が広がってきただけで、水田の減少によって感じる」とか。「水田の減少によって水生昆虫が少なくなってきた」とも言う。昆虫という視点から見ても、自然環境が変化してきているということがわかります。昆虫についてのお話を聞いていた時のうれしそうなお表情が印象的でした。 広報委・三橋敬司(高18回)

相川戸陵会

私の戦争体験

今年は戦後70年の節目の年と言うことで、各メディアが当時を振り返って報道するであろうと思えます。そこで、私も終戦当時の旧制厚木中学の様子を思い起こしてみました。

生意気盛りで反抗期の中学2年生、日本の敗色も濃くなった昭和20年、上級生は軍需工場へ動員されていて、残る我々は農家の手伝いや防空壕掘りなどをさせられています。

4月中頃のある日、学校の近くの断崖に横穴式の防空壕を階級少尉の教官の指揮で掘っていました。突然、空襲警報のサイレンが鳴り響き、急いで穴から出てみると、

横山 義一(高2回)

真つ黒の胴体の艦載機グラマンの編隊が学校の西隣の中島飛行機工場(今の日産工場)目指して低空で飛んで来ました。慌てた教官が「何時ものところへ逃げろ」と怒鳴りました。私たちは、息を切らして坂道をよじ登り、指定されている学校の脇の雑木林の中に掘られたタコ壺に転がりこみました。はじめてのこと、みんな青ざめた顔をしていました。私は、思わず「防空壕を掘っていたのだから、わざわざここまで来なくてもよかったです。」と大声で言ってしまうところ。ところが、運悪く、私の後ろに教官が苦虫つぶしたような顔で立っているではありませんか。

「しまった」と思いましたが、すぐに動く、学校に戻って校庭で点呼し解散になりましたが、教官が傍にきて、「お前はここに立っておれ」と残されてしまいました。2時間たっても3時間たっても音沙汰ありません。太陽が大山の端に架かり、寒さが増してきました。仕方なく思いきって職員室に行きましたが、教官は居らず、歴史の先生に説教されて帰してもらいました。それから、1時間半もかかた道程を歩いて家に帰りました。それからがいかげせん。教練の時間になると、その教官に眼の敵にされると、いじめられました。何かあると私のせいになされ、叩かれたり蹴飛ばされたりしました。おかげで、一学期の成績で、教練は評価「優・良・可・不可」の「不可」でした。不可が一つでもあると進級できません。「もうダメか」と絶望しました。

ところが、夏休みに入ると、すぐに動員され、淵野辺の戦車工場に行きました。そこでは、すでに戦車を造る資材もなく、地下深く防空壕掘りなどさせられ、そして、8月15日の終戦を迎えました。二学期になり、学校に戻ると、一部の校舎は断部隊の兵舎に使われた後で雑然としていましたが、生徒は上級生も加わり生き返ったように賑やかになり、そして、あの怖かった教官の姿も見えず、教練も時間表から外されました。これで進級できると、内心ホッとしました。

以後、新しい民主主義の教育へと舵が切られ、教科書に墨を入れたり、授業ポイコットが行われたりの多少の混乱もありましたが、2年後の学制改革で中学が高校になり、そのまま高校1年生となり、おかげで6年間この学校にお世話になりました。

関西戸陵会

41名参加で大盛況の総会開催と名取裕子さんの朗読会鑑賞

事務局長 福本 豊(高28回)



平成26年6月15日に第5回関西戸陵会を開催しました。今回は佐藤信行校長先生の出席が実現し、節目に華を添える素晴らしい会となりました。参加者も総勢41名と初めて40名の大台を越し盛況のうちには終えることができませんでした。本部からは伊藤修治事務局長(高17回)にお出でいただき、同窓会全体の興味ある話をしていただきました。当会は若い卒業生と女性が多く出席されます。また遠方から駆けつけてくれる友情出席者もあり、今回も神奈川県から3名、愛知県から1名の出席を頂き、活気に溢れた会となりました。最年少の52回女性会員に至っては3歳のアイドルも同伴での参加でした。また長老の大先輩は、中1回からで

後輩諸氏に「人生のお手本」を披露していただきました。当日のメインイベントは、佐藤校長を囲んでのミニトークで、メンバーは男女12名、「何で関西に来たの?」、上沼恵美子や辛坊治郎の質問に、メンバーの回答も関西のノリで返す、関西の厚高生のトークショーが展開されました。閉会にあたっては例により全員で校歌を歌い余韻冷めやらぬうちに閉会となりました。戸陵会の皆さま、今後も関西戸陵会の維持を図る為関西への異動情報がありましたら一報をお願いします。

来年の開催日は、平成27年6月14日(第2日曜日)で時間と会場は毎回同じ11時開演、会場は「ホテルグランヴィア大阪」20階宴会場です。また、1月3日には名取裕子さん(高28回)の新春朗読会「女優」を13名で鑑賞しました。初演にもかかわらず素晴らしいトークと演技で兵庫県立芸術文化センター800席満場の観客を魅了され、2時間が瞬く間に過ぎ、改めて厚木高校卒業生のポテンシャルの高さを実感することができ、誇りに思えました。公演後には特別な計らいにより名取さんと記念撮影をさせて頂き、思わぬお年玉に全員が晴れやかな気持ちのまま解散となりました。

OB会便り



今日も原つばの向こうに柔道着姿の子どもたちが見えた。こんな山間にも柔道があるのだという驚きと、旧友に再会するよううれしさがこみあげる。この言いようのない気持ちは、何度見ても変わらないから不思議だ。慣れない土地での暮らしに疲れを感じている時でさえ、その風景を見るだけで私の気持ちは嘘のように晴れてしまう。

2014年7月1日、私はJICA青年海外協力隊として柔道を指導するためにブータンにやってきました。2011年の国王と王妃の来日でブータンにも柔道があるというのを知って以来、ブータンはいつか訪れてみたい憧れの国だったが、ここにたどり着くまでの間、偶然のようで必然のような長い旅を続けてきた気がする。今回は、そのことを振り返ってみよう

横浜で生まれ海老名で育った私は、中学に入ると市の柔道協会で柔道を始めた。厚高に進学してからも柔道を続け、二年から三年時にかけては部長を務めた。大学に入學すると次第に関心は他へと移り、しばらく柔道からは遠ざかってしまったが、社会人としての生活を始めると、またそれが当たり前であるかのように、家の近くの道場へ足を運ぶようになった。そうして何年か過ぎた2012年のはじめ、私はインドネシアにいた。インドネシアの子どもたちのために道場を作りたいと願い、遂にはそれを実現した日本人柔道家を訪ねたのだ。そしてそこで、貧しいながらも柔道に打ち込む子

どもたちの姿を見た。それまでも途上国とそこで暮らす人々のために何か力になりたいという気持ちは人並みに持っているが、何をしたらよいのか、自分のできることもあるのだろうかという迷いは、いつも私を傍観者にしていったと思う。しかし、もしかしたら何か発見があるかもしれないと思いつつ訪ねたその先で、自分の身近にあった柔道がその迷いをいとも簡単に取り払ってしまったのだということを知った。それからの私は一週間から二週間の休みが取れると、柔道着を持ってアジアの国を訪ねた。インドネシア、シンガポール、ネパール、ラオス、フィリピン、スリランカ。行く先々で「日本から柔道家がや

柔道の旅はブータンに続く

柔道部OB 堀内 芳洋(高50回)

つてきた!と突然押しかけたアマチュア柔道家を、皆が笑顔で歓迎してくれた。ただ一緒に柔道をして汗をかく。それだけでいつの間にか壁は無くなる。壁があると思い込んでいたのは自分だけかもしれないが、もうそこには傍観者であった自分はいなくなっていた。教えてほしいと頼まれて子どもたちに指導をすることもあったが、実際は自分が学ぶことのほうがはるかに多かったように思う。

次第に短い期間だけでなく、腰を据えて海外の柔道のために貢献したいという思いが頭をもたげられる。でも仕事も、もう若くもないし、年に二度あるJICAの青年海外協力隊の募集でさまざまな国や地域から柔道の要請があるのを見て

は、異国に溶け込んで現地の人々と一緒に柔道をする自分の姿を想像した。そして2013年春、私は青年海外協力隊の募集でブータンから柔道指導者の要請があることを知ることになる。

当時、私は大学の職員として大学生や高校生を相手に仕事をしており、仕事が終わると、地域の小学生にボランティアで柔道を教えていた。ちょうど2020年東京オリンピックの招致運動が盛んに行われていた頃で、日本の社会と学校教育は、この数年のうちに変わっていくのではないかと予感があった。とりわけ、若い世代の国際交流に関しては国を挙げて支援を始めている。口だけで彼



憧れの国ブータンで柔道を指導

らに広い世界を見なさい」とは簡単だが、若い世代の教育に関わりのある立場としては、自身の経験をもとに彼らに何かを伝えることができる大人でありたい。そんな思いもあり、そしてブータンへの憧れも強く、私はもう自分の気持ちを抑える理由はなかった。(家族、年齢、帰国後の仕事など、実際のところ悩みは尽きなかったのだが)こうして、私はブータンに辿り着いたのだ。

そして今日も原つばの向こうに柔道着姿の子どもたちを見ている。どこなく昔の日本の原風景を彷彿とさせる風景と子どもたちの表情は、ある人にとっては懐かしく、ある人にとっては新しいものだろう。もしかしたら日本人はそれを幸せと呼んでいるのかもしれない。最後に、在学中、そして卒業後もお世話になり、ブータンでの活動を支援してくださっている厚木高校柔道部OBの先輩方に感謝を申し上げます。また、厚木高校の大先輩であり、厚高生やOBには「茅賞」でおなじみの第17代目東京大学総長茅誠司氏は、現一般社団法人協力隊を支える会初代会長として、青年海外協力隊事業に多大なる貢献をされた方であることをこの場を借りて皆さまにご紹介いたします。

ブログやFacebookで活動の近況をお知らせしています。ぜひご覧ください。

JICAボランティアの世界日記 <http://world-diary.jica.go.jp/horinchi/>
ブータン柔道協会
Facebookページ
<https://www.facebook.com/BhutanJudoAssociation>

同窓会本部役員・理事・支部役員 <平成27年2月15日現在>

【同窓会本部役員】

- 会長 曾根 秀敏 (高14)
副会長 足立原 泰 (高12)
副会長 落合 重治 (高13)
副会長 石射 隆宏 (高14)
副会長 伊藤 修治 (高17)
副会長 大井理恵子 (高18)
副会長 廣木 孝幸 (高19)
副会長 谷 茂 (高22)
監事 大貫 政一 (高17)
監事 大貫 睦男 (高17)

【同窓会本部事務局】

- 事務局長 石塚 修 (高28)
事務局長次長 志村 祐一 (高24)
事務局長次長 平賀 友子 (高35)
会計 水島 泉 (高29)
会計 長田 靖子 (高33)

【理事】

- 1 高橋 力 (高18)
2 高橋 昌和 (高27)
3 小林 義廣 (高18)
4 岡崎 雄二 (高15)
5 金子 輝司 (高15)
6 大矢 正次 (高14)
7 梅澤 文明 (高11)
8 町山 良行 (高11)
9 鶴指 眞澄 (高15)

【各地区同窓会支部】

- 1. 伊勢原戸陵会
会長 高橋 力 (高18)
事務局長 小川 均 (高22)
2. 秦野戸陵会
会長 谷 茂 (高22)
事務局長 松永 光弘 (高24)
3. 津久井戸陵会
会長 奈良 雅之 (高8)
事務局長 小林 義廣 (高18)
4. 平塚戸陵会
会長 落合 重治 (高13)
事務局長 渡辺 兼行 (高19)
5. 横浜会
会長 長田 敬幸 (高7)
6. 相模原戸陵会
会長 金子 輝司 (高15)
事務局長 三沢 賢一 (高21)
7. 座間戸陵会
会長 瀬戸 宏孝 (高4)
事務局長 山本 愈 (高11)
8. 愛川戸陵会
会長 梅澤 文明 (高11)
事務局長 大貫 邦重 (高16)
9. 川崎市多摩麻生戸陵会
会長 町山 良行 (高11)
10. 綾瀬戸陵会
会長 新倉 正治 (高15)
事務局長 八田 誠 (高36)
11. 海老名戸陵会
会長 杉崎 秀夫 (高17)
事務局長 鶴指 眞澄 (高15)
12. 三浦半島戸陵会
会長 伊藤 学 (高30)
13. 大和戸陵会
会長 石川 創一 (高18)
事務局長 長田 靖子 (高33)
14. 藤沢戸陵会(旧御所見)
会長 泊瀬川 孚 (高14)
事務局長 大貫 睦男 (高17)

- 10 石川 創一 (高18)
11 泊瀬川 孚 (高14)
12 杉田 泰繁 (高14)
13 新川 勉 (高30)
14 都高 泉 (高17)
15 下川 信好 (高14)
16 劍持 典子 (高26)
17 伊藤 桂 (高16)
18 神崎 愷 (高13)
19 高橋 増次 (高11)
20 高橋 将 (高14)
21 石川 武久 (高16)
24 森久保 純生 (高16)
25 三平 明彦 (高14)
26 八田 誠 (高36)
27 伊藤 学 (高30)
28 星 博美 (高18)
29 齋藤 昌代 (高26)
30 山本 智子 (高28)
31 土屋 由子 (高32)
32 阿部 洋 (高22)
33 真崎 和秋 (高22)
34 今井 雅裕 (高26)
35 関野 俊之 (高28)
36 小川 均 (高22)
39 入澤 隆 (高16)

- 15. 厚木連合戸陵会
会長 杉田 泰繁 (高14)
幹事長 森久保 純生 (高16)
事務局長 平野 亮二 (高27)
① 厚木戸陵会
会長 足立原 強 (高16)
事務局長 池田 清 (高19)
② 依知戸陵会
会長 都高 泉 (高17)
事務局長 伊藤 修治 (高17)
③ 睦合戸陵会
会長 下川 信好 (高14)
事務局長 小島 勉 (高22)
④ 荻野戸陵会
会長 三平 明彦 (高17)
事務局長 諏訪 寿夫 (高16)
⑤ 小鮎戸陵会
会長 伊藤 桂 (高16)
事務局長 森久保 純生 (高16)
⑥ 南毛利戸陵会
会長 神崎 愷 (高13)
事務局長 宗藤 崇 (高21)
⑦ 玉川・森の里戸陵会
会長 高橋 増次 (高11)
事務局長 山口 義章 (高15)
⑧ 相川戸陵会
会長 高橋 将 (高14)
事務局長 山口 正春 (高17)
16. 清川戸陵会
会長 石川 武久 (高16)
事務局長 相原 栄一 (高20)
17. 新潟戸陵会
会長 青木 茂治 (高9)
事務局長 齋藤 勝司 (高8)
18. 関西戸陵会
会長 齋藤 十内 (高16)
事務局長 福本 豊 (高28)

高20回 華やかかなり 同期の集い
2月22日に高20回同期会を厚木市内のレンブラントホテルで開催...

一先生の俳句集、同期の山下(旧姓小島)知津子さんが発行された句集「麟」と手紙などを飾った。また、同期で現役大臣の甘利明君が公務多忙の中、駆け付けてスピーチをしてくれた。...



109名もの参加で盛り上がった高20回の同窓会

山(旧姓小泉)裕美さんの閉会あいさつで幕を閉じ、全員で記念撮影して一次会を終了。会場を隣の部屋に移し、59名が松本茂君のユーモア溢れる進行のもと二次会を大いに楽しみ、さら

に会場を外に移しての三次会へと流れていった。 飯田 政孝記

同期会開催のお知らせ

- 高19回(第2回)同期会
日時/6月13日(土)17時より
会場/レンブラントホテル厚木
会費/10000円
高35回同期会
日時/11月28日(土)16時30分
高36回同期会
日時/11月1日(日)
会場/レンブラントホテル厚木

平成26~28年度 広報委員会委員 (平成27年4月1日現在)

Table with 5 columns: 役職, 氏名, 卒回, 所属戸陵会, 連絡先. Lists committee members and their contact information.

お詫びして、訂正させていただきます。

P 9 大塚憲二（高 18）氏の所属
正 依知戸陵会
誤 睦合戸陵会

P 12 15. ②依知戸陵会事務局長
正 大塚憲二（高 18）
誤 伊藤修治（高 17）

P 12 15. ④荻野戸陵会事務局長
正 伏見清（高 18）
誤 諏訪寿夫（高 16）

P 12 追加
19. さくら戸陵会
会 長 大井理恵子（高 18）
事務局長 星 博美（高 18）